

波紋

1990 4 第58号

社内報に新しい風!

デザイン一新

変革の時代を迎え、社内新しい風を。

日本のみならず世界の大変革の年である平成2年。企業も、自由な競争原理にもとづく民営化へという転換期を迎えています。こうした時代を生き抜く為、何事にも挑戦する姿勢が必要ではないかと思われまます。新社屋をはじめ、新入社員、そして新デザインの社内報など「社内新しい風」をうけて、社員全員で激動する時代をのりきる為に頑張りますよう。



4月2日より、男子(4名)女子(3名)合計(7名)の新入社員の方々が入社されました。早々、入社式・慰安旅行・新入社員研修会とたくさん行事が待っています。

がんばって下さい。そして一日も早く「森松」に慣れて下さい。

得意先・仕入先の皆様、どうぞ7名のフレッシュマンを温かく見守って下さいませ、お願い致します。

また、先輩社員であります僕たちも、より一層がんばりますので宜しくお願い致します。

五月号より、フレッシュマンの7名には、自己紹介を中心に抱負等を書いてもらいます。御期待下さい。



交差点

「叱りべた社長」

「部下を上手に叱る方法」という本がある。私は叱り方、注意の仕方が下手な人間だから、ほめ方や叱り方で上役の能力を判断されると非常に困ることになる。

社員の皆さんに、生き生きと仕事をしてもらいたい、やる気も起こしてもらわないといカンのだから、この事は重要な問題です。

本人の為にと思って注意したものの・・・。受取る側が逆に感じてしまふならば、これは大きなロスである。

近頃は、兄妹の数が少なく、兄妹同志で傷つけあったり、かばったり、年上のガキ大将におもねることもなく、そして先生や両親にも叱られる事が少なく・・・。だから、ひ弱な、傷つきやすい体質になっているのでしよう。

又、叱られ指摘される事柄は、本人の不得手もしくは弱点の部分がが多いから、無視したり、隠したり反発したりする態度を取るの、人間の本能なのかも知れませんが・・・。ね、「皆んな悩んで大きくなった」という、CMがありました。が、悩み、苦しみ、傷ついて人は成長、脱皮するものです。死ぬまで付いてまわる問題なのだから上手に対応しないと人生が楽しくない。(叱る人も、叱られる人も)

今月は、新入社員が入社してきます。皆さんとも一緒にジックリ考えてみたいと思います。

森 信之

トシ君の一方通行

身長175cm以上、一流大学卒業、スポーツマン、次男か三男、つまり長男でない。車(高級車だ!)があつて、出来ればマンション付。土地付きなら尚結構。更に英語に堪能で、趣味が合つて優しい人、これが夫の理想条件である。そんな男いるなら俺の前へ連れて来い。大体身長175cmとは何事か! 30歳じゃ何かと困るであらうが...

一流大学を相手に求めてどうする。こういうくだらん事をくだらん雑誌なんぞに圧倒的解答等と掲載するから、世の中の身長174・6cmの人間、大学出ていない人間、マンションを持っていない男が悩むんじゃない(悩む方もおかしい!)。大体、夫婦二人で協力して築き上げていくという事が結婚であるという事が分かつておらん。時が流れ、基本的な価値観迄変わるのは困つたもんだ。

一生懸命働いてくれる人でいいです。そういう解答でエエンやけどね。森松の社員のカーチャンは皆純粋ですぞ! だから森松の父ちゃん連中は働くんです。カーチャンの為子供の為...



木村 英利

「フォーシーズン」 人手不足倒産の三つのパターン

A・求人難型
好況下で需給バランスを失い人手の確保が難しくなつてしまうケース。

B・従業員退職型
仕事ができる中堅社員の退職続発から納期・工期が遅れ出し運営が困難になるケース。

C・後継者難型
社長や幹部役員の死亡・病気などで経営続行が困難になるケース。三つのパターンを週刊誌で読んだのですが、人手不足の問題、考えざるおえないです。

今年一月の全体の企業倒産は四五件だそう。好景気なのに倒産するのです。昨年一年間の人手不足倒産は二四二社、一昨年前は五七社。四・二倍の急増、恐ろしいです。

これらすべて中小・零細企業です。業種別には建設業が全体の三五%、製造業、サービス業、御売業の順だそう。考えさせられます。森松はまだまだ良い方です。今年、新入社員男子4名、女子3名入社です。常務のリクルート活動のおかげです。

新入社員のみなさん、森松はいい会社ですよ。何かあつたら私に相談して下さい。(お金のことは私には言わないで下さい。)



光田 昭男

暮らしのエッセイ

残業も一時の事を思うと少なくなり(効率的な仕事の結果!)、帰宅時間も大部早くなりました。子供達が、「あれ! もう帰つて来たの!」との事? 好きなテレビ番組が見られなくなるせいか?、不思議です。

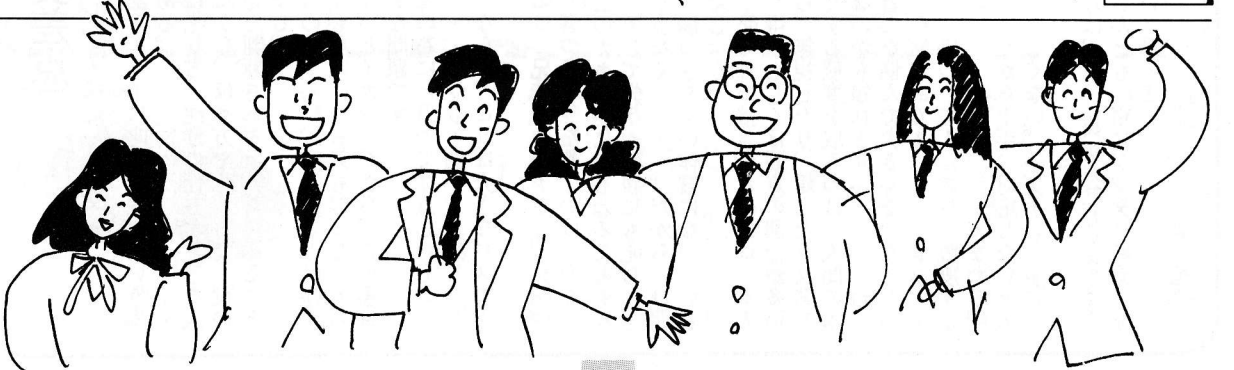
仕事多忙の時は一週間も子供の顔を見ない日が続いた事もあります。「父様元気で留守がいい」のかどうか判かりませんが、話す機会もあまり無く、又子供に無関心だったのか、父親としては失格ですネ。

「担任の先生の名前は?」「試験の結果は?」「塾では何習つての?」妻まかせで全然知りませんでした。この頃少しずつ子供との時間が持てるようになり話してくれました。学校の出来事、クラブの事等聞き、限りある時間の中で、父親としてのアドバイスを送っています。

次女が今年小学校卒業で、中学ではバレー部に入学するとの事。共通の話題が一つ増えた事を内心喜んでおります。長女は音楽部で今度ピアノの発表会があるとのこと。

勉強にスポーツに目一杯頑張つて欲しいと思つています。ただ、女の子ですから、明るく他人に思いやりのある優しい娘に育ってくれたらいいな! と! いつも居ない父親だけど、応援してる事を忘れないで欲しい。

二人の娘へ 田井村 俊秋

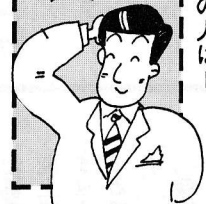


直撃インタビュー タビュール!!

今月号は、とにかく面倒見がよくて、女性には、必要以上に優しい。完璧な段取りで幹事を引き受ければ右に出る者がいない。

「大府弁」とやらしい、けつたいな言葉を森松に浸透させたすごい人、なおかつダンディであるからニ・ク・イその人はー。

Part.2 営業二部 山口部長



Q 森松に入社されたのはいつですか?
A 昭和五十六年、八月一日

Q 大好物は何ですか?
A 「カニ」 「魚白身」

Q 尊敬している人は誰ですか?
A 身近な人では、某会社の取締役。

Q 自慢できる事を一つ書いて下さい。
A 手が長い(身長に比べて)

Q もし、ポツチオン便所に一百万落としたら、どうしますか?
A お世話になったので、置いていきます。

Q 一番心に残っている歌は何ですか?
A Come together ビートルズ

知っている歌は、それぞれその頃の思い出が有ります。昔から歌うのは、いやでしたが、聴くのは好きでした。



Q ステキな(美味しい)お店を教えてください。
A 「美容室 Zeal (ジール)」
大府市梶田町 電話(0562) 46-7807
営業時間 AM 9時〜PM 6時
PM 6時〜7時は完全予約制
定休日 火曜、第3水曜日
背の高い観葉植物があり、思わず見上げてビックリ! 悠に二メートルはあるんだけど天井はもっと高い吹き抜き。
カウンターがあつてコーヒーも飲みちゃう。「美容院」兼「喫茶店」っていう感じ、広々とした空間が何とも言えなくステキ。

感想。「実際に行ってきた編集部員」
P.S. 近道中に必ず行こうとしている

編集部員「N」



あつ。一言、実はこのお店「ナント、オーナーは山口部長の弟さんなのです。とつてもハンサムな店長サンです。春になってきた事ですし、皆さんもサツパリ、リフレッシュされてはいかがですか?

Q 三つの願いがかなうとしたら何を願いますか?

A (1) 人類の平和(家庭と平和)健康

(2) 環境破壊: 経済発展があるうえには仕方がないケド...

(3) 年をとらない。

「奥様へ一言」

「大きな心」

ユーモアをもっと
もって欲しいですネ。



ちよつと奥サマと、
真和君・文香ちゃんにインタビュー

Q 御主人に何か一言!

A 冷蔵庫の点検しないで下さい!

Q プロポーズの言葉を教えてください。

A 記憶にございません。

※ ウーム残念!

Q 会社から帰つて来てから二人で何を話されますか?
A 又、御主人は何をしていらつしゃいますか?

A 子供の話しが始いですネ。

A 寝ている事が多いです。

「お父さんへ一言」

真和君「やくそくをやぶらないでね。」
文香ちゃん「たかいたかいして!」

御協力有難うございました。

P.S. さて、次号ですが「新入社員紹介」の為、直撃インタビューはお休みさせていただきますので御了承ください。

編集部

波 紋

1990 4 第58号

社内報に新しい風!

デザイン 一新

変革の時代を迎え、社内
に新しい風を。

日本のみならず世界の大変革の年である平成2年。企業も、自由な競争原理にもとづく民営化へという転換期を迎えています。こうした時代を生き抜く為、何事にも挑戦する姿勢が必要ではないかと思われまます。新社屋をはじめ、新入社員、そして新デザインの社内報など「社内の新しい風」をうけて、社員全員で激動する時代をのりきる為に頑張りますよう。



4月2日より、男子(4名)女子(3名)合計(7名)の新入社員の方々が入社されました。早々、入社式・慰安旅行・新入社員研修会とたくさんの方の行事が待っています。がんばって下さい。そして一日も早く「森松」に慣れて下さい。

得意先・仕入先の皆様、どうぞ7名のフレッシュマンを温かく見守って下さいませ、お願い致します。また、先輩社員であります僕たちも、より一層がんばりますので宜しくお願い致します。五月号より、フレッシュマンの7名には、自己紹介を中心に抱負等を書いてもらいます。乞う、御期待下さい。



交差点

「叱りべた社長」

「部下を上手に叱る方法」という本がある。私は叱り方、注意の仕方が下手な人間だから、ほめ方や叱り方で上役の能力を判断されると非常に困ることになる。

社員の皆さんに、生き生きと仕事をしてもらいたい、やる気も起こしてもらわれないとイカン。のだから、この事は重要な問題です。

本人の為にと思って注意したものの・・・受取る側が逆に感じてしまふならば、これは大きなロスである。

近頃は、兄妹の数が少なく、兄妹同志で傷つけあったり、かばったり、年上のガキ大将におもねることもなく、そして先生や両親にも叱られる事が少なく・・・だから、ひ弱な、傷つきやすい体質になっているのでしよう。

又、叱られ指摘される事柄は、本人の不得手もしくは弱点の部分が多いから、無視したり、隠したり反発したりする態度を取るの、人間の本能なのかも知れませぬ・・・ね。「皆んな悩んで大きくなった」という、CMがありました。が、悩み、苦しみ、傷ついて人は成長、脱皮するものです。死ぬまで付いてまわる問題なのだから上手に対応しないと人生が楽しくない。(叱る人も、叱られる人も)

今月は、新入社員が入社してきます。皆さんとも一緒にジックリ考えてみたいと思います。

森 信之